

「健康増進の基盤に」 Cネット

弘大、県、市がシンポ

弘前大学の健康増進プロジェクトが国内最大規模の研究支援制度「Cネット」に採択されたのを記念し、弘大と県、弘前市は10日、同市のアートホテル弘前シティでシンポジウム「イノベーション summit」を開いた。会場とオンライン合わせて約2200人が参加。プロジェクトに関わる県内外の研究者らが、プロジェクトの現状や今後の展望を紹介した。

弘大C O I ネット事業は、健康づくりが経済的な豊かさを生む地域社会の実現を目指す。弘大が開発したQOL健診（啓発型健診）をデジタル技術で発展させ、自宅にいながら健診を受けられる「DX健診システム」の構築と、子どもからお年寄りまで健康的な生活を身に付けてもらう「全世代アプローチ」などに取り組む。

事業責任者の村下公一・弘大教授は基調講演で「この事業を健康づくりの一大プラットフォームに発展させたい。本県の短命県返上だけでなく、全国や世界にも取り組みを広げていく」と強調した。



弘大の健康増進プロジェクトについて話し合ったイノベーション summit

から約15人が参加し、健康的な生活を全世代に広める方法などを話し合った。また特別企画として、20人以上の研究者らが各研究分野の最前線などを解説した。

（赤田和俊）

パネルディスカッションには研究機関や県、市など